

【第1号議案】 2022年度（令和4年度） 事業報告案

1. 概況

1. 展示事業

(1) 利用状況

2022年度（令和4年度）は3本の企画展示「生誕130年記念 新潟県人直木賞作家第1号・鷺尾雨工一人と作品一」、「有恒学舎創設 増村朴齋—教育への思い—」、「生誕110年記念 宮終二—越後が生んだ歌人の歌と生涯—」を開催し、2,287名（うち有料1,301名）【R3=3,205名（うち有料2,304名）】の来館者を迎えました。この3本の企画展示および後述するネットワーク協議会事業は、（公財）新潟県文化振興財団から受託した「郷土の文化人顕彰事業」です。

開館日は232日間。休館日は月曜日（祝休日を除く）、展示替え期間、年末年始、2023（令和5）年3月を含む133日間でした。

(2) 常設展示事業

2019（令和元）年に開催した企画展示「にいがたの映画人」で紹介した、東映初代社長・東映動画初代社長の大川博（新潟市）のイラスト、ネームプレートを作成して展示しました。

(3) 企画展示事業

3本の企画展示に加えて、2022年10月4日から11月3日の会期で、新潟日報社所蔵の坂口安吾直筆手紙を展示しました。

① 「生誕130年記念 新潟県人直木賞作家第1号・鷺尾雨工一人と作品一」

2022（令和4）年4月9日（土）～7月10日（日） 80日間

入館者数 589名（うち有料326名）

② 「有恒学舎創設 増村朴齋—教育への思い—」

2022（令和4）年8月6日（土）～11月3日（木・祝） 77日間

入館者数 990名（うち有料492名）

併催「坂口安吾と新潟日報」

2022（令和4）年10月4日（火）～11月3日（木・祝） 27日間

③ 「生誕110年記念 宮終二—越後が生んだ歌人の歌と生涯—」

2022（令和4）年11月26日（土）～2023（令和5）年2月28日（火） 75日間

入館者数 708名（うち有料483名）

これら企画展示で19名の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。

2. ネットワーク協議会事業

(1) 第6回にいがたネットワーク協議会

館長及び事務局長が新任で協議会参加団体の運営状況を知る必要があり、第6回協議会での情報交換をスムーズにするため、事前アンケートを5年1月に実施しました。

第6回協議会は3月14日に開催。参加団体は9団体でした。事前に実施した県内51文化施設・団体アンケートの回答内容をもとに、それぞれの施設・団体が、新型感染症下で地域や学校とどのようにつながりを持ち、どういった活動をしているか。愛好者グループ（友の会など）、ボランティアがいるところは施設とどうかわり方をしているか。企画や運営にも携わっている様子を報告してもらえました。

(2) 出張展示支援

①「生誕 130 年記念 直木賞作家県人第 1 号 鷺尾雨工」

県人では唯一の直木賞作家、鷺尾雨工に光を当てました。受賞作は南北朝の乱世を描いた作品「吉野朝太平記」。発表した多くの歴史小説は高い評価を受け、それらの作品を展示しました。また雨工の文学碑を建てる会事務局長の五十嵐政人氏が講演で雨工の生涯を詳しく紹介。困窮の中で文学の道を諦めなかった雨工の波乱に満ちた一生を浮かび上がらせました。

②「有恒学舎創設 増村朴斎－教育への思い」

増村朴斎の教育者としての業績を取り上げました。朴斎の地元、上越市板倉区の視察事業で 20 人が来館。有恒高校卒業生も何人かが来館。有恒高校から借りて展示した勝海舟筆の扁額「有恒学舎」は来館者の目を引きました。

③「宮終二 越後が生んだ歌人と歌と生涯」

生誕 110 年を記念して開催。展示はまず宮終二に親しんでもらうことを第一に、業績や作品を大雑把に紹介し、短歌の鑑賞や関心を持ってもらうきっかけとしました。また、終二のふるさと堀之内（魚沼市）を訪ね、宮終二記念館にも足を運ぶことを勧めました。

(3) 館報の発行

館報「にいがた文化」は、新潟県博物館協会（事務局：北方文化博物館）に加盟していない小さな顕彰館や顕彰団体の事業や活動情報も掲載しています。県博物館協会の「県博協ニュース」（毎年 4 月発行）は、協会加盟館の情報のみ。それを補完する役割を担っています。

(4) PR 動画作成呼びかけ（未実施）

(5) 参加団体による出張講座（R3 年度パイロット事業）（未実施）

(6) 県内 51 文化施設・団体アンケート（R4 年度パイロット事業） ※別紙参照

新型コロナウイルスの発生 3 年目ということで、その影響・対応を聞くとともに、それらを含め現状と課題を聞きました。回答率は 7 割。回答内容をもとに、第 6 回にいがた文化ネットワーク協議会を開催し、「地域・学校との連携」テーマに意見交換会をしました。

3. 教育普及事業

企画展示関連事業として、担当学芸員による解説会を当初全 9 回予定しました。外部講師による講演会は、6 月に鷺尾雨工の文学碑を建てる会の五十嵐政人事務局長による講演会（「生誕 130 年記念 直木賞作家県人第 1 号 鷺尾雨工」展）を、12 月に宮終二が主宰した短歌結社「コスモス」選者・編集委員で歌人の小島ゆかり氏による講演会を開催しました。

令和 4 年度の企画展示関連イベント参加者総数は 2 1 2 名（前年度 260 名、前年比 81.5%）。内訳は作品解説会が 5 3 名（前年度 56 名、前年比 94.6%）、外部講師による講演会は 1 5 9 名（前年度 204 名、前年比 77.9%）でした。小中学校または高校などによる団体観覧（総合学習含む）は 1 3 校・団体のべ 2 0 7 名（前年度 9 校・団体、228 名、前年比 4 校増、対前年度比 90.7%）の来館がありました。

館外活動では、学芸員による新潟日報への寄稿が 3 本。講演会は武藤顧問や学芸員による講座等が 5 回、のべ 2 1 2 名（前年度 55 名、前年比 385.4%）の参加がありました。

4. 調査及び研究・研修事業

文化人データベース構築作業を進めました。また、当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加しました。

5. 収集・保存、資料貸出

(県出身またはゆかりの文化人に関する資料の寄贈受入はなし)

6. 広報

平成 27 年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビの 3 団体から助成または共催をいただき、企画展示の規模に合わせて広報しました。紙の価格が高騰しているため、紙媒体（チラシ、ポスター）の他に SNS（Facebook やツイッター）での情報発信を強化しました。令和 4 年秋にはツイッターを開始し、当館企画展示の情報発信に加えて、ネットワーク協議会参加館を中心に県内文化施設の休館・企画展情報や県内の文化イベント等の投稿を情報共有するなど、オンライン上でも各施設や団体との連携を図っています。

2. 事業別報告

1. 展示事業

(1) 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業参加者総数
232 日／365 日間	133 日／365 日間	2, 287 名	1, 301 名	212 名 (担当学芸員による解説会 および企画展示関連事業)

※2021（令和 3）年度実績：開館日 254 日間 入館者総数 3,205 名（うち有料 2,304 名）、普及事業参加者総数 260 名

(2) 常設展示

クール	テーマ名	会期	開催日数	備考
1	① 受賞者「にいがたゆかりの直木賞作家」*1 ② 医学 生没年グラフ ③ 新潟の女性 生没年グラフ ④ 美術 生没年グラフ ⑤ 文学 生没年グラフ	4/9(土)～ 7/10(日)	80	*1. 企画展示「生誕 130 年記念 直木賞作家 県人第 1 号 鷺尾雨工」の関連展示
2	① 受賞者「堀口九萬一と大學」*1 ② 医学「井上圓了」*1 ③ 中国学「中国学研究の伝統と革新」 ④ 美術「武石貞松と弘三郎」*1 ⑤ 文学「増村朴斎と會津八一」*1	8/6(土)～ 11/3(木・祝)	77	*1. 企画展示「有恒学舎創設 増村朴斎—教育への思い—」の関連展示
3	① 受賞者「酒博士・歌人 坂口謹一郎／詩人・イギリス文学者 西脇順三郎」*1 ② 医学 生没年グラフ ③ 新潟の女性「宮終二夫人 歌人・宮英子」*1 ④ 美術「宮終二ゆかりの画家 宮芳平、瀧口修造、駒井哲郎」*1 ⑤ 文学「會津八一と宮終二／宮終二の父と松岡讓」*1	11/26(土)～ 5/2/28(火)	75	*1. 企画展示「生誕 110 年記念 宮終二—越後が生んだ歌人の歌と生涯—」の関連展示
通年	文化勲章（10 名） 文化功労者（17 名）	4/9(土)～ 5/2/28(火)	232	

人間国宝 (5名)			
-----------	--	--	--

(3) 企画展示

① 「生誕 130 年記念 直木賞作家県人第 1 号 鷺尾雨工 一人と作品」

会 期	2022 (令和 4) 年 4 月 9 日 (土) ~ 7 月 10 日 (日) 80 日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	五十嵐政人氏 (鷺尾雨工の文学碑を建てる会事務局長)、鷺尾雨工の文学碑を建てる会、新潟市立中央図書館、新潟市立黒埼図書館
趣 旨	<p>歴史小説を多数発表し、新潟県人で初めて直木賞作家となった鷺尾雨工 (1892~1951 年) は、2022 年に生誕 130 年を迎えた。</p> <p>旧黒鳥村 (現新潟市西区) に生まれ小千谷で育った雨工は、作家を志して早稲田大学に進学した。大学では講師の相馬御風から将来を嘱望され、また同級には、後に作家として活躍し直木賞の由来となる直木三十五がいた。卒業後に直木の誘いを受けて出版事業に手を出したが、直木の金遣いの荒さや関東大震災による倒産で多額の負債を負い、二人の間に確執が生まれてしまう。雨工は小千谷に帰郷するが、直木の作家活動に刺激されて一家で再上京。職を転々としながら執筆を続けたが生活は苦しかった。人気作家となった直木への対抗意識から『吉野朝太平記』を書き、1936 (昭和 11) 年に第 2 回直木賞を受賞した。</p> <p>鷺尾雨工の生誕 130 年を記念して、その業績と生涯について紹介した。</p>
紹介文化人	鷺尾雨工 (新潟市)、相馬御風 (糸魚川市)、西脇順三郎 (小千谷市)、青野季吉 (佐渡市)、野坂昭如 [新潟市ゆかり]、網淵謙錠 [新潟市ゆかり]、阿刀田高 [長岡市ゆかり]
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展 示	<p>新潟県人初の直木賞作家・鷺尾雨工を、新潟市中央図書館や新潟市黒埼図書館所蔵の資料を展示して紹介した。また、関連展示「新潟ゆかりの直木賞作家」では、鷺尾雨工のほかに、野坂昭如 (新潟市ゆかり)、網淵謙錠 (新潟市ゆかり)、阿刀田高 (長岡市ゆかり) らを紹介した。</p> <p>また、鷺尾雨工文学碑の碑陰拓本の縮小コピー (鷺尾雨工の文学碑を建てる会提供) を来場者プレゼントとした。</p>
関連事業	<p>① 講演会「鷺尾雨工の文学と生涯」 参加者数：79名 開催日：6月5日 (日) 会場：新潟日報メディアシップ 6階ナレッジルーム 講師：五十嵐政人氏 (鷺尾雨工の文学碑を建てる会事務局長、元新潟市中央公民館館長)</p> <p>② 担当学芸員による解説会 全3回 (3回とも同じ内容) 参加者総数：9名 開催日：4月23日 (土)、5月28日 (土)、6月25日 (土) 会場：当館 担当：伊豆名皓美</p>
広 報	<p>① チラシ (A4、両面カラー、割引券付) 10,000 部、ポスター (B2、片面カラー) 400 部 (県内顕彰施設や図書館などに発送)</p> <p>② 新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス (29 回掲載)</p> <p>③ ラジオ CM：BSN ラジオ</p> <p>④ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム、Kita-Colle ART (ミュージアムポータルサイト)</p> <p>⑤ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」(イベント情報)、「カルチャーにいがた」</p>
掲載記事 または番組	<p>4月1日 (金) NIPPO TAKE A WALK 2022 年 4 月号 みんなの掲示板 (企画展示の案内)</p> <p>4月22日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー 展覧会 (企画展示の案内)</p> <p>5月1日 (日) NIPPO TAKE A WALK 2022 年 5 月号 みんなの掲示板</p> <p>5月6日 (金) 新潟日報おとなプラス まちの掲示板 催し (企画展示の案内)</p> <p>5月20日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会</p> <p>5月24日 (火) 新潟日報 文化欄 展覧会へようこそ「固定観念を覆した生涯」(執筆者：伊豆名皓美)</p> <p>5月27日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会</p> <p>6月3日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会</p> <p>6月4日 (土) 新潟日報 日報抄 (鷺尾雨工と記憶館の企画展示の紹介) (執筆者：新潟日報報)</p>

	<p>道部長代理兼論説編集委員・鈴木啓弘氏)</p> <p>6月6日(月) 新潟日報 地域面 「本県出身の直木賞作家 鷺尾雨工の講演会 光と影の生涯紹介」(6月5日五十嵐政人氏による企画展関連講演会の取材記事)</p> <p>6月17日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会</p> <p>7月1日(金) NIPPO TAKE A WALK 2022年7月号 みんなの掲示板(企画展示の案内)</p> <p>7月5日(火) BSN ニュースゆうなび 「県人初の直木賞作家 鷺尾雨工の足跡たどる企画展」(放映時間 18:53~18:54)</p>
入館者数	589人(うち有料326人) ※4年度予算案作成時の目標人数=700人(達成率=84.1%)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	<p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鷺尾雨工の文学碑を建てる会事務局長の五十嵐政人氏による講演会を開催することができた。講演会は満席となった。講師が制作に携わった雨工の紹介動画や雨工遺族のインタビュー映像、雨工の『吉野朝太平記』の舞台となった大阪の写真など、豊富な資料を交えての講演は参加者に好評だった。 ・調査の過程で、新潟市黒埼図書館に雨工の『吉野朝太平記』第1巻の初版本が所蔵されていることがわかり、借用することができた。1巻の初版本はあまり流通しておらず極めて希少な資料のため、借用公開することができたのは貴重な機会となった。 ・新聞広告を見て小千谷(雨工ゆかりの地)から来たという来館者もいた。 ・鷺尾雨工の文学碑を建てる会事務局長の五十嵐政人氏の協力により、大阪府内にある『吉野朝太平記』登場人物の銅像や墓の写真を展示で紹介することができ、雨工の作品世界についても展示で触れることができた。 ・今回借用展示した資料の多くは、平成5年に旧黒埼町で開催された雨工初の回顧展でも紹介されたものであるが、初公開資料(鷺尾雨工が講師を務めた講演会のチラシ)を借りて展示した。 <p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者プレゼントは、黒埼図書館前に建つ鷺尾雨工文学碑の拓本の縮小コピーだったのだが、新聞広告を見て新潟市黒埼図書館で来場者プレゼントがもらえると勘違いした人がおり、黒埼図書館に問い合わせが行ってしまった。今後、誤解を招く表現を避けるよう心掛けるとともに、企画内容について協力先にあらかじめ伝えるようにしたい。 ・鷺尾雨工の直木賞受賞前の作品5冊と受賞作『吉野朝太平記』については内容(あらすじ)紹介を付したが、直木賞受賞後の作品として展示した37冊は、歴史上の人物の名がそのまま作品名になっているものが多く、内容についての詳しい紹介までは手が回らなかった。今後、文学作品を紹介する際にはなるべくあらすじも紹介するようにしたい。
担当	伊豆名 皓美

② 新潟県文化祭 2022 参加協賛事業 「有恒学舎創設 増村朴斎—教育への思い—」

会期	2022(令和4)年8月6日(土)~11月3日(木・祝) 77日間
主催	にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	新潟県立有恒高等学校、上越市教育委員会
趣旨	<p>創立から127年目を迎えた新潟県立有恒高校(上越市板倉区針)は、地元生まれの教育者・増村朴斎(1868~1942年)が1896(明治29)年に開学した「有恒学舎」を前身とする。</p> <p>朴斎は14歳で上京して漢学を学んだ。郷土の子弟を育てることを夢見て、帰郷後に私財を投じて「有恒学舎」を設立。孔子の『論語』から「有恒」という言葉を選んだ校名の額は、勝海舟が揮毫して井上圓了から届けられた。「恒(つね)に変わらない信念を持ち続ける人間」を育成したいという朴斎の願いが込められた学舎には、會津八一(新潟市出身)など全国から実力派の教師が招かれた。</p> <p>本展では、教育者・増村朴斎と有恒学舎を関連資料とともに紹介した。</p>
紹介文化人	増村朴斎(上越市)、井上圓了(長岡市)、會津八一(新潟市)、武石貞松(長岡市)、武石弘三郎(長岡市)、堀口九萬一(長岡市)
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展示	新潟県立有恒高等学校の前身「有恒学舎」を創設した増村朴斎について、県立有恒高校や上

	越市教育委員会が所蔵する資料を展示し、教育者としての業績を紹介した。あわせて、有恒学舎に英語教師として勤務した會津八一（新潟市出身）や勝海舟揮毫の扁額を朴齋に届けた哲学者・井上圓了（長岡市出身）、英語教師を探していた朴齋に會津八一を紹介した漢学者・武石貞松（長岡市出身）とその弟で彫刻家の武石弘三郎（長岡市出身）など、新潟県の文化人も資料とともに紹介した。
関連事業	① 担当学芸員による解説会 全3回（3回とも同じ内容） 参加者総数：16名 開催日：8月20日（土）、9月17日（土）、10月15日（土） 会場：当館 担当：伊豆名皓美
広報	① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）11,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ② 新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス（31回掲載） ③ ラジオCM：BSNラジオ ④ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム ⑤ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」
掲載記事 または番組	8月1日（月） NIPPO TAKE A WALK 2022年8月号 みんなの掲示板（企画展示の案内） 8月5日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会（企画展示案内） 8月6日（土） 新潟日報おとなプラス まちの掲示板（企画展示の案内） 8月26日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 8月27日（土） 新潟日報 文化面 展覧会へようこそ「道徳説き続けた46年間」（執筆者：伊豆名皓美） 9月1日（木） NIPPO TAKE A WALK 2022年9月号 みんなの掲示板 9月1日（木） 新潟日報おとなプラス 読者のひろば「増村朴齋の願いを忘れずに」 9月2日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 9月16日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 9月28日（水） 新潟日報おとなプラス まちの掲示板 10月1日（土） NIPPO TAKE A WALK 2022年10月号 みんなの掲示板 10月21日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 10月28日（金） 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会
入館者数	990名（うち有料492名） ※4年度予算案作成時の目標人数=700人（達成率=141.1%）
総括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	○ 評価点 ・有恒高校が、企画展について学校のホームページや学校だよりで紹介するなど協力的だった。会期中に学校関係者も来館し、「企画展を見て初めて知ったこともある」などの感想を頂いた。 ・有恒高校同窓会有志の企画により、上越市教育委員会の事業として団体見学があった（有恒高校同窓会関係者21名+上越市板倉区総合事務所職員2名が参加）。また、上越市板倉区周辺の出身者で朴齋の名前を知っている人や、有恒高校の卒業生などの来館者もいて、本展開催に対して地元から反響を頂けた。 ・板倉区の観光公社より、本展のキャプションや解説パネルを来年度以降に貸してもらえるかどうかと打診があった。地元との協力体制のきっかけとしていきたい。 ■ 検討課題 ・朴齋は教育者であり漢学者でもあったが、今回の企画では、展示スペースの都合からも教育者としての側面に焦点を当てることとした。そのため、会期中に朴齋揮毫の自作漢詩の六曲一双屏風の所蔵者から展示の申し出があったが、今回の展示の趣旨に沿わないこととスペースの都合からお断りした。作品や資料の所蔵先の情報はまとめておき、今後の展示に活かすようにしたい。
担当	伊豆名 皓美、石垣 雅美

③ 新潟県文化祭 2022 参加協賛事業 「生誕 110 年記念 宮終二 一越後が生んだ歌人の歌と生涯」

会期	2022（令和4）年11月26日（土）～2023（令和5）年2月28日（火） 75日間
主催	にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日报社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社

展示協力趣旨	魚沼市 宮終二記念館 戦後歌壇をリードした歌人・宮終二（魚沼市生まれ、1912～1986年）の生誕110年を記念して、当館として初めて宮終二を単独で取り上げ企画した。そのため、宮終二についてまだ知識がない人、魚沼市宮終二記念館へ行ったことがない人を主なターゲット層に想定し、宮終二記念館の所蔵資料で宮終二の生涯と代表的な短歌を紹介した。 宮終二は、北原白秋に師事し、歌誌『多磨』創刊に参加した。太平洋戦争では中国山西省を転戦。この経緯がのちに戦場詠として『山西省』として結実した。1953（昭和28）年に歌誌『コスモス』を創刊、有力歌人を輩出した。また、宮中歌会始の選者を8回務めた。終二の作品には、魚沼地方の四季や風土が色濃く反映している。魚沼市名誉市民（旧堀之内町名誉町民）である。
紹介文化人	宮終二（魚沼市）、會津八一（新潟市）、相馬御風（糸魚川市）、松岡譲（長岡市）、宮芳平（魚沼市）、西脇順三郎（小千谷市）、坂口謹一郎（上越市） 〔県外〕北原白秋（福岡県出身）、釈道空（大阪府出身）、瀧口修造（富山県出身）、宮英子（富山県出身）、駒井哲郎（東京都出身）
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展示	宮終二記念館の所蔵資料を借用して、宮終二が短歌を作りはじめたきっかけや北原白秋との出会い、戦争体験、歌誌『コスモス』創刊など、生涯の特筆すべき出来事や業績、代表的な短歌について紹介した。あわせて関連展示では、宮終二ゆかりの文化人を紹介した。また、宮終二全集や著作などの関連図書閲覧コーナーを設けた。
関連事業	① 小島ゆかり氏講演会「宮終二 命へのまなざし」 参加者数：80名 開催日：12月14日（水） 会場：新潟日報メディアシップ2階日報ホール 講師：小島ゆかり氏（歌人、『コスモス』選者・編集者） ② 担当学芸員による解説会 全3回（3回とも同じ内容） 参加者総数：28名 開催日：12月24日（土）、1月21日（土）、2月18日（土） 会場：当館 担当：伊豆名皓美
広報	① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ② 新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス（25回掲載） ③ テレビCM：NST新潟総合テレビ ④ ラジオCM：BSNラジオ ⑤ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム ⑥ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」
掲載記事または番組	11月18日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会（企画展示案内） 11月19日（土）新潟日報 文化面「歌人小島ゆかりさん 宮終二を語る」（12/13小島ゆかり氏講演会案内） 11月25日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 11月26日（土）新潟日報 文化面「宮終二の足跡知る きょうから企画展」（企画展示開幕記事）（執筆者：新潟日報文化担当統括デスク石原亜矢子氏） 12月1日（木）NIPPO TAKE A WALK 2022年12月号 みんなの掲示板 12月2日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 12月7日（水）新潟日報おとなプラス まちの掲示板（12/13小島ゆかり氏講演会案内） 12月16日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 12月22日（木）新潟日報 文化面「歌人・小島ゆかりさん 宮終二を語る 命を尊ぶまなざし 貫く」（小島ゆかり氏講演会記事）（執筆者：新潟日報文化担当デスク石塚恵子氏） 12月23日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 1月1日（日）NIPPO TAKE A WALK 2023年1月号 みんなの掲示板 1月6日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 1月20日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 1月27日（金）新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 1月28日（土）新潟日報 文化面 展覧会へようこそ「ふるさとの風土 色濃く」 1月31日（火）新潟日報おとなプラス 特集「故郷愛した歌人 宮終二生誕110年宮終二」（執筆者：おとなプラスライター和田明子氏）

	2月3日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 2月17日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 3月3日(金) 新潟日報おとなプラス 読者のひろば「宮柊二の歌と生涯 心打たれ」(企画展示の感想)
入館者数	708人(うち有料483人) ※4年度予算案作成時の目標人数=700人(達成率=101.1%)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	○ 評価点 ・宮柊二の生涯と代表的な短歌を紹介するために、宮柊二の生涯を紹介するための基礎的な資料を借用した。宮柊二記念館の展示内容と重ならなかったため、宮柊二の生涯を紹介するために欠かす事のできない資料も借用し、展示することができた。 ・宮柊二の短歌には魚沼の自然を詠んだものもあり、現地の風土に触れることで宮柊二の歌をより深く味わえるので、企画展では宮柊二のおおまかな全体像を伝え、詳しく知るために宮柊二記念館へ出かけてもらうようにと呼びかけた。来館者から、顕彰館にも足を運んでみたいという声もあった。 ・講演会講師の小島ゆかり氏には、短歌や宮柊二についての知識がない人に対してもわかりやすく講演していただけたので、参加者のほとんどから理解が深まったとの感想があり、満足度の高い講演会となった。 ・リピーター割引を実施し、2名の利用者がいた。今後も展示内容によっては実施を検討したい。 ・SNS上に「宮柊二展を見て一層短歌に親しみたいと感じた」、「坂口謹一郎の歌集『醜酔』を見ることができて良かった」などの感想が投稿されており、展示内容に対して肯定的な声が聞かれた。 ■ 検討課題 ・企画段階で宮柊二記念館へ資料貸出協力を依頼し了解を得ていたが、実際に調査依頼をしたのが、宮柊二記念館主催の大型イベント(全国短歌大会)準備の最も忙しい時期と重なってしまい、対応してもらうのに負担をかけてしまった。今後は先方の事業の予定をよく確認し、計画を立てるようにしたい。 ・講演会参加申し込み方法として初めて Google フォームを取り入れた。Google フォームから申し込んだ参加者へのメール連絡を講演会3日前にすると予告していたが失念しており、連絡が講演会前日になってしまった。次回以降はスムーズに運用するよう心掛けたい。
担当	伊豆名 皓美

2. ネットワーク協議会事業

事業名	内容
(1) 第6回にいがた文化ネットワーク協議会	開催日時：令和5年3月14日(月)午後 会場：新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム 参加団体：9団体 議案：①感染症下での情報交換(テーマ「博物館・美術館・顕彰館・図書館 地域や学校との連携—その現状と課題」) ② ネットワーク協議会運営や協力体制(共通観覧券、スタンプラリー等)についての話し合いは時間切れのため未実施
(2) 出張展示支援	①「生誕130年記念 直木賞作家県人第1号 鷺尾雨工 一人と作品—」 会期：2022(令和4)年4月9日～7月10日 展示協力：五十嵐政人氏(鷺尾雨工の文学碑を建てる会事務局長)、鷺尾雨工の文学碑を建てる会、新潟市立中央図書館、新潟市立黒崎図書館 ②「有恒学舎創設 増村朴齋—教育への思い—」 会期：2022(令和4)年8月6日～11月3日 展示協力：新潟県立有恒高等学校、上越市教育委員会 ③「生誕110年記念 宮柊二 —越後が生んだ歌人の歌と生涯—」 会期：11月26日～2023(令和5)年2月28日 展示協力：魚沼市 宮柊二記念館 ※①、②、③とも展示場所は当館展示室
(3) 館報の発行	誌面名：「にいがた文化」第8号

	発行：2023（令和5）年3月 仕様：16ページ、A4、カラー印刷 内容：表紙 増村朴斎《学規》（上越市教育委員会蔵） P7 いがた文化ネットワーク協議会参加館の取り組み紹介 寄稿「宮柊二生誕110年 宮柊二記念館開館30年を迎えて」 執筆 宮柊二記念館 下村 正人 館長 P12～16 新潟県内の文化人顕彰施設・団体からのPR情報（ネットワーク館） 発行部数：6,000部（無料頒布） 頒布先：県内文化施設、図書館、学校等
(4) PR 動画作成 呼びかけ	[顕彰館・団体への動画制作呼びかけ] R4年度内の動画作成は無し
(5) 参加団体による出張講座（R3年度パイロット事業）	R4年度は実施せず

3. 教育普及事業

(1) 担当学芸員による解説会（参加者総数：53名） ※2021（令和3）年度実績：56名

事業名	開催日	内容	参加人数
「生誕130年記念 直木賞作家県人第1号 鷺尾雨工一人と作品一」	4/23(土)	担当：伊豆名 皓美	3名
「生誕130年記念 直木賞作家県人第1号 鷺尾雨工一人と作品一」	5/28(土)	担当：伊豆名 皓美	0名
「生誕130年記念 直木賞作家県人第1号 鷺尾雨工一人と作品一」	6/25(土)	担当：伊豆名 皓美	6名
「有恒学舎創設 増村朴斎一教育への思い一」	8/20(土)	担当：伊豆名 皓美	3名
「有恒学舎創設 増村朴斎一教育への思い一」	9/17(土)	担当：伊豆名 皓美	8名
「有恒学舎創設 増村朴斎一教育への思い一」	10/15(土)	担当：伊豆名 皓美	5名
「生誕110年記念 宮柊二一越後が生んだ歌人の歌と生涯一」	12/24(土)	担当：伊豆名 皓美	7名
「生誕110年記念 宮柊二一越後が生んだ歌人の歌と生涯一」	1/21(土)	担当：伊豆名 皓美	8名
「生誕110年記念 宮柊二一越後が生んだ歌人の歌と生涯一」	2/18(土)	担当：伊豆名 皓美	13名

(2) 企画展示関連講演会（参加者総数：176名） ※2021（令和3）年度実績：176名

事業名	開催日	内容	参加者数
関連講演会「鷺尾雨工の文学と生涯」	6/5(日)	講師：五十嵐政人氏（鷺尾雨工の文学碑を建てる会事務局長） 会場：メディアシップ6階 ナレッジルーム	79名
歌人・小島ゆかり氏講演会「宮柊二 命	1/10	講師：小島ゆかり氏（歌人、『コスモ	80名

へのまなざし	(月・祝)	ス』選者・編集者) 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール	
--------	-------	-----------------------------------	--

(3) ネットワーク協議会事業関連講演会 (参加者総数：0名) ※2021 (令和3) 年度実績：28名

事業名	開催日	内容	参加者数
にいがた文化ネットワーク協議会 連続講座②	(未開催)	(実施せず)	—

(4) 学校との連携事業 (参加者総数：3名) ※2021 (令和3) 年度は0名

開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2 年生 3 名による臨地実習

期間：2022 (令和4) 年 6 月 17 日 (金) ～ 8 月 5 日 (金)

内容：紹介文化人および館運営にかかる座学、鷲尾雨工の四コマ漫画作成および展示

※2022 年度に来館した小中学校数及び生徒数：11 校、176 名 (2021 年度：7 校、97 名)

(5) 館外での活動 (執筆、講座、講演会など)

■ 執筆活動

タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
新潟日報「展覧会へようこそ」 「固定観念を覆した生涯」	5 / 24 (火)	企画展示「生誕 130 年記念 直木賞 作家県人第 1 号 鷲尾雨工」を紹介	伊豆名 皓美
新潟日報「展覧会へようこそ」 「道徳説き続けた 46 年間」	8 / 27 (土)	企画展示「有恒学舎創設 増村朴 斎」を紹介	伊豆名 皓美
新潟日報「展覧会へようこそ」 「ふるさとの風土 色濃く」	1 / 28 (土)	企画展示「生誕 110 年記念 宮終 二」を紹介	伊豆名 皓美

■ 講座、講演会など (参加者総数：212名) ※2021 (令和3) 年度は55名

事業名	開催日	内容	参加者数
新発田市立豊浦中学校主催 新発田市立豊浦中学校 総合的な学習 の時間「キャリア教育」 「新発田の偉人に学ぶ文化の発展に 寄与する生き方」	5 / 26 (木)	担当：伊豆名皓美学芸員 会場：新発田市立豊浦中学校体育 館	49 名
新潟県市町村総合組合主催、R4 年度 市町村職員研修 一般職員研修第 2 部 第 3 回講演「近代のパンデミック、近 代新潟県が輩出した医学者、近現代の 文化的偉人を輩出した新潟県、偉人輩 出の背景、日本の文化をになった新潟 人」	8 / 24 (水)	担当：武藤 斌顧問 会場：新潟県自治会館本館 201 会 議室	31 名
ゆいぽーと (新潟市芸術創造村・国際 青少年センター) 主催 二葉アーツスクール 2022 めだかの 学校第 3 回「尾竹竹坡と落谷虹児」	11 / 12 (土)	担当：石垣雅美学芸員 会場：ゆいぽーと 4 階多目的スペ ース 2	17 名
新潟市中之口地区公民館主催、令和 4 年度 中之口地域学「東映初代社長 大 川博の実像と魅力に迫る」	11 / 20 (日)	担当：石垣雅美学芸員 会場：中之口地区公民館 1 階多目 的ホール	47 名

第1回「新潟の映画人 大川博と東映、東映動画」			
新潟市中之口地区公民館主催、令和4年度 中之口地域学「東映初代社長 大川博の実像と魅力に迫る」 第2回『素顔の大川博』～そして映画・野球だけではない大川博の生涯～	12/4(日)	講師：大川裕氏（大川博の孫） アシスタント兼聞き手：石垣雅美学芸員 会場：中之口地区公民館 1階多目的ホール	68名

4. 調査及び研究・研修事業

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

5. 収集・保存、資料貸出

■ 資料の寄贈受入

令和4年度は寄贈受け入れなし

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧（企画展示関連記事をのぞく）

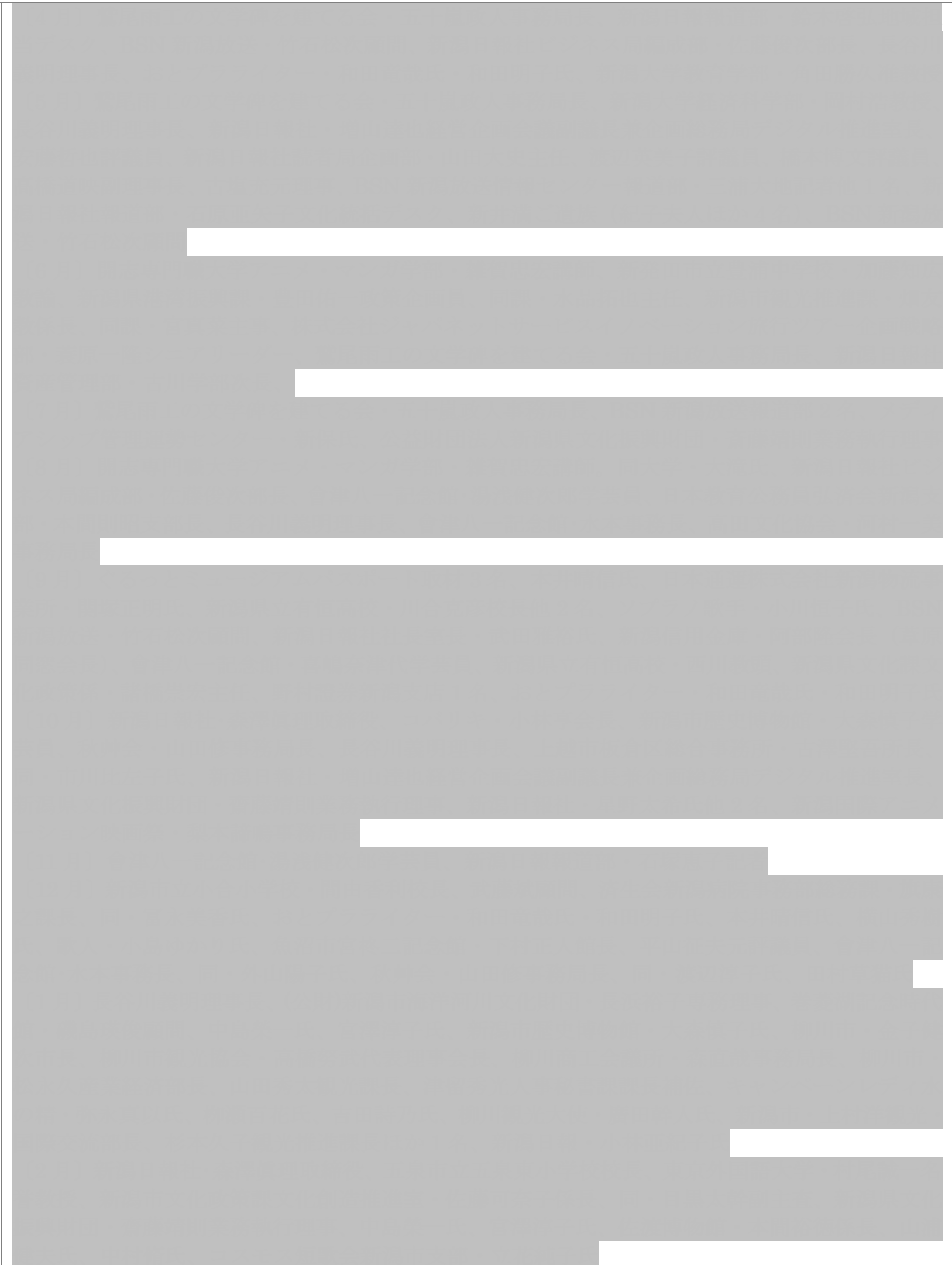
掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
新潟日報	5/29(日)	「千の風」故新井満さん 収集品 母校彩る 新潟明訓高きょうまで公開（新井紀子夫人の来館について記載あり）	—
新潟日報	11/5(土)	こしじガイド 講演会「東映初代社長大川博の“実像と魅力”に迫る」	—
新潟日報	2/10(金)	広告「にいがた文化の記憶館」2022年度維持会員・パスポート会員の皆様 ご支援感謝致します	—

3. 事業別評価

事業名		評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展 示	常設展示 (相関図)	○ 常設展示の相関図や個人パネルで紹介している文化人と、企画展示の紹介文化人との関連資料などを展示した。	■ 以前からの課題だが、企画展示毎に常設コーナーも展示替えをしているが、外部の方から常設展示がいつも同じなどの感想をいただくことがある。展示替えしたことを知ってもらうための PR 方法を考えたい。
	企画展示	○ 顕彰館がない文化人を紹介した企画展示を開催することができた。それにより、地元の自治体や顕彰団体、教育機関との連携を図ることができた。 ○ SNS と親和性の高い企画展示では、新たな来館者が見受けられた。	
ネットワーク協議会	協議会	○ 第6回協議会開催にあたり、感染禍での教育普及に関するアンケートを実施。感染禍での各施設や団体の活動での活動や課題など具体的に共有することができた。	■ 事業計画時点では6月に開催予定であったが、3月に延期した。第6回協議会の開始から、アンケート回答をもとに参加団体に報告してもらったが、それだけで終了時間となり、次年度以降の連携提案

			や協議会の運営や協力体制などの話し合いまでは進まなかった。
	顕彰施設及び団体との連携		■ 議題としてこれまで各館のPR動画作成、(記憶館での)出張展示や出張講座の実施といったことが挙げられている。R4年度に実施したアンケートにならない、それらについて各館・団体の声(要望・意見)を聞き、どういったことが可能かを探ることが必要だと考える。
	館報	○ 予算の都合で16ページに減らしたが、特集と称して二つの講演会の内容を詳しく載せた。企画展示で紹介した人物について、展示内容に加え、知識(生涯・作品)を深めることに役立つものと思われる。	■ 予算の都合で16ページに減らした。前号より広告出稿が減った。紙価格の高騰などにより、他施設・団体で図録や館報など紙媒体をデジタル化する動きもみられる。紙媒体としての館報発行にウェブサイトやSNSなどインターネット媒体を組み込んでの情報発信を整理し、検討する必要がある。
	PR動画作成呼びかけ		■ R4年度は未実施。新型コロナウイルス感染症が5類に移行するに併せて、PR動画の必要性などを再検討したい。
	出張講座		■ R3年度はパイロット事業として開催したが、4年度は未実施。継続できるよう仕組みを見直したい。
教 育 普 及	イベント、講演・解説	○ 外部での普及活動(講演・講座)が多い年であった。	
	副読本・偉人かるた	○ 感染禍のためか、偉人かるたがコンスタントに購入されている。	■ 以前からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりを進めたい。
調 査 ・ 研 究		○ 基本とする文化人データを調査、蓄積している。 ○ 企画展示の準備や照会依頼により、文化人の調査ができた。	■ 文化人データベース構築で使用するアプリケーションなどハード面の見直しを進めたい。
人 物 選 定 委 員 会		○ 新たな人物に関する資料の収集を続けている。	
広 報		○ ツイッターでの発信を始めてたことにより、オンライン上でも県内の顕彰施設や顕彰団体と緩やかにネットワークを作ることが出来ている。	■ 紙媒体とSNSではそれぞれ対象を絞り、より効果的な広報を計画したい。 ■ 館内でSNSでの広報に関する知識をつける必要性を感じている。

【参考資料】 ◇主な来館者（来館順に掲載）

個人・団体（行政・企業等）	
ご遺族	鷺尾雨工ご親戚、新井満ご遺族 5 名、宮柊二ご遺族 2 名 <div style="text-align: right;">計 8 名</div>
団体観覧（一般）	〔4 月〕 BSN 新潟放送・新人研修 8 名、新潟日報社新人研修 13 名、NST 新潟総合テレビ・新人研修 3 名 〔10 月〕 新潟県立有恒高校同窓会 21 名 <div style="text-align: right;">計 4 団体（45 名）</div>

<p>団体観覧 (学校) ※引率者 を含む ※太字は 前年度以 前から継 続して見 学してい る学校</p>	<p>[4月] 新潟市立宮浦中学校 2年生 14名 [5月] 新潟市立月潟中学校 2年生 6名・引率 1名、新潟市立上山中学校 2年生 8名、 [6月] 開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名(臨地実務実習生)、村上市健民少年団岩 船地区 10名・引率 5名、新潟市立曾野木中学校 2年生 22名・引率 1名 [7月] 開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名(臨地実務実習生)、新潟市立鳥屋野中学 校 2年生 2名(職場体験)・引率 1名 [8月] 開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名(臨地実務実習生) [9月] 福島県喜多方市立第一中学校 2年生 6名、新潟市立関屋中学校 3年生 2名(職場体験)・ 引率 1名 [10月] 新潟市立巻東中学校 2年生 16名、新潟市立五十嵐中学校 1年生 92名・引率 3名、新潟 市立中之口中学校 2年生 4名、新潟市立下山中学校 2年生 4名</p> <p style="text-align: right;">計 13校・団体 (201名) ※ 2021(令和3)年度=計 9校・団体 (228名)</p>
--	--

4. 財団運営業務

1. 会議の開催状況

(1) 理事会

	開催日・会場	主な議事
第1回 (定時)	令和4年5月9日 新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム	[議事] 1. 2021(令和3)年度 事業報告案の件 2. 2021(令和3)年度 決算案の件(監査報告) 3. 理事および評議員の人事案
第2回 (定時)	令和4年5月24日 新潟日報メディアプラス3階	[議事] 1. 令和4年度代表理事・理事長ならびに代表理事・副理事長の互選の件、および業務執行理事・館長ならびに業務執行理事・常務理事選任の件
第3回 (定時)	令和5年3月27日 新潟日報メディアプラス3階	[議事] 1. 2023(令和5)年度 事業計画案 2. 2023(令和5)年度 予算案 [報告] 1. 2023(令和5)年度第1回(決算)理事会、評議員会の開催時期について

(2) 評議員会

	開催日・会場	主な議事
第1回 (定時)	令和4年5月24日 新潟日報メディアプラス3階	[議事] 1. 2021(令和3)年度 事業報告案の件 2. 2021(令和3)年度 決算案の件(監査報告) 3. 理事および評議員の人事案
第2回 (定時)	令和5年3月27日 新潟日報メディアプラス3階	[議事] 1. 2023(令和5)年度 事業計画案 2. 2023(令和5)年度 予算案 [報告] 1. 2023(令和5)年度第1回(決算)理事会、評議員会の開催時期について

2. 組織

(1) 役員等の人数(令和5年3月31日現在)

評議員	14名	令和3年3月23日から現体制
理事	10名	理事内訳(代表理事2名、館長・理事1名、常務理事・事務局長1名、理事6名)
監事	1名	

(2) 職員数(令和5年3月31日現在)

館長	事務局長	職員	計
1名	1名	2名	4名

※ 顧問1名、学芸顧問1名

(3) 組織図 (令和5年3月31日現在)

